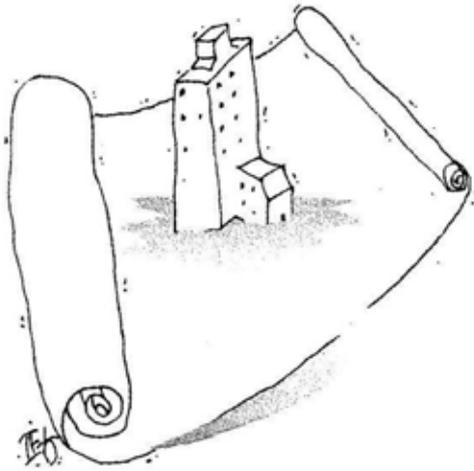


設計と建築

第3編6章

キリスト者の生活(6~10章までの序論): 聖書は私たちにキリスト者としての生活を生きること薦めている。



私たちがキリスト者としての生活を送るということは他でもなく神がご自分と私たちの間に立てられた仲保者キリストを私たちの生活の模範とし、そのみ形を私たちの生活で表わしていくことにあるのです。神が私たちをキリストにおいてご自分の養子としてくださった条件はそこにあります。神と私たちを和解させてくださったキリストを私たちの生活で毎日に、豊かに表わしていくことです。

設計図のない建物があるでしょうか。もしあったとしたら、それはどんなに危険なものになるでしょう。建築物は設計図に従って作られます。すべての建築は設計から始まり、設計に従って進んでいき、設計図通りに完成します。そのような意味から考えると建築の正否はすでに設計の段階で決定されていると言っていいでしょう。もちろん、設計に従わない不法建築物も作ることが可能ですが、建築において設計の重要性はどんなに強調してもしすぎることはありません。キリスト者はキリスト者としての生活という特別な人生を送るように召されています。そしてその生活は常に健全で、美しく、幸福な生活を生きるように完璧に設計されています。ですからもし私たちの生活が豊かで幸福なものでないとするならば、その大きな原因は設計図を無視して生きているためではないかと考える必要があるでしょう。

第1節 キリスト者の生活についての設計図は聖書である。

神が私たちを再生させた目的は何でしょうか。それは私たちの従順と神の義が一致する生活を私たちにさせるようにし、そのようにすることで既に受けた神の子としての資格をさらに確実にさせるためなのです(ガラテヤ 4:5、第二ペトロ 1:10)。もちろん、神のみ言葉には私たちの内に神の形を回復させることのできる神聖なる力が十分に存在しています。しかし、私たちはどんなに愚かで悪しき存在なのでしょう。そのように再生させられた後でも私たちは愚かで無知な建築家と同じ行動をしているのです。

私たちはやる気も、力も有りますが、良い設計図がない建築家なのです。私たちの弱さからど

んなに真実な悔い改めをして、神に対する熱情を持つようにされたとしても簡単に道を迷い出してしまうのです。そこで再生したキリスト者たちは完全な設計図に従って、一日一日注意深く自分の人生を建築していく必要があるのです。そしてその設計図こそ聖書のみ言葉であると言えるのです。

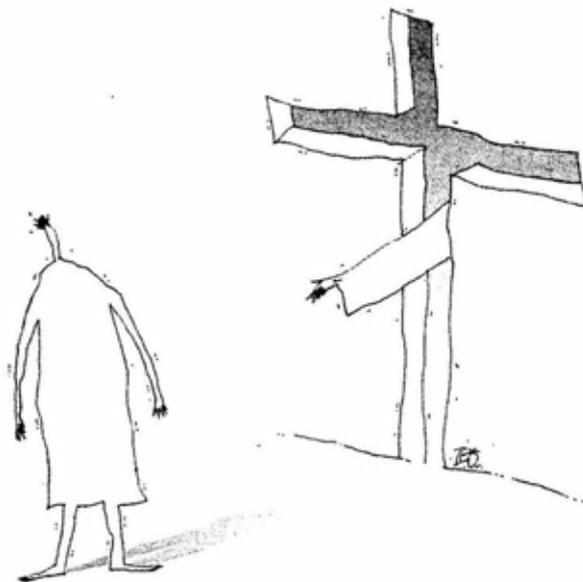
世の哲学者たちも人が正しく良い生活を送るために要求される徳目が何であるかについて熱心に教えてきました。何が正しく、何が良いか、このようなときにはどうするか、そのようなときにどうすべきかなどと彼らは語り尽くせないほどに饒舌な言葉を用いています。そうすることによって自らの才能を誇るように、言葉に言葉を重ねて見せるのです。

しかし、私はもともと簡潔さを好んでいます。そして長々と語ることがよき教え方であるとは思っていないのです。ですからこの本の目的に従って教理を可能な限り単純明瞭に教えるために複雑なことには立ち入るつもりはありません。その代わりに、私たちを正しい生活に導き、私たちの義務が何であるかを示す普遍的な規範を聖書から見つけ出し、簡単に整理してみたいのです。

第2節 キリスト者の生活の動機。

なぜキリスト者としての生活を送る必要があるのでしょうか。なぜそのような建物を作らなければならないのでしょうか。その建築の動機は何なのでしょうか。聖書は二つの重要な事柄を私たちに教えています。一つは墮落して義に対しての熱情を全く失ってしまった私たちの心の内に神の恵みによってその義へのあこがれが注ぎ込まれたと言うことです。そしてもう一つは私たちが義を求めて励もうとするときに、あららこちらに道を踏み外さないようにと神は私たちにある規則を定め、それを守るように命じられたと言うことです。そしてその規則こそが聖書のみ言葉なのです。このように聖書のみ言葉に導かれる義なる生活こそキリスト者としての生活であると言えるのです。

神が私たちに義なる生活を要求する理由は聖書の様々なところに記されています。まず、「あなたがたは聖なる者となれ。わたしは聖なる者だからである」と言うみ言葉です（レビ記 19:2；第



一ペトロ 1:15、16)。私たちが義なる生活を送る必要がある動機としてこれにまさる動機がどこにもありません。栄光の中におられる神の最もはつきりとした特徴の一つは悪しきものや汚れたものとは全く関係のない方であると言うことです。しかし、そのような神が私たちと固く結合されて親しき交わりをもつことができるのでしょうか。

このように罪惡に満ちた私たちにどうしてそのような奇跡が起こるのでしょうか。神の聖潔が私たちに注ぎ込まれたからです。神はそうすることによって私たちをご自分に従うこと

ができるようにと召してくださっているのです。ですから聖潔は私たちキリスト者の生涯を通して目指すべき最高の目標と言えるのです（イザヤ 35：8）。それが神様によって私たちが救われた目的であるのに、神に救われていながらも世の罪悪に染まり、一生を腐敗の中で過ごし続けても疑問を感じないとすれば、私たちは何のために救われたとすることができるのでしょうか。聖書は真の主の民であるならば聖なる都エルサレムの住民とならなければならないと語っています（詩 116:19、122:2-9）。「神の子たちは不純によって汚されてならない、なぜならば汚れなく歩み、義を追い求めるための天幕が彼らの住むべき場所として与えられているからです」と教えているのです（詩 15:1、2、24:3、4）。

第3節 キリスト者の生活を送るもっとも大切な動機はキリストの贖いに基づいている。

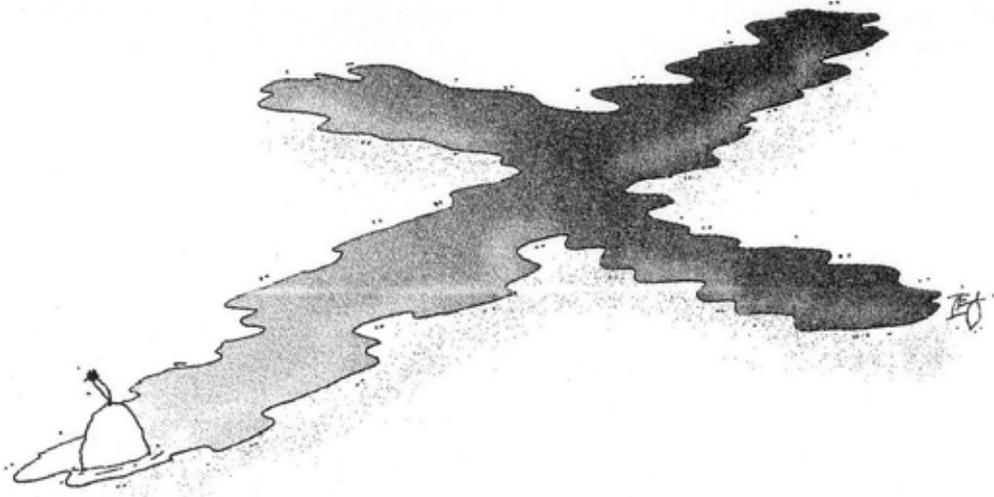
しかし、私たちがキリスト者としての生活を送らなければならない最も強力な動機はキリストのためであると言えます。私たちがキリスト者になるのは当然、キリストにおいてのみ可能となるのです。神はキリストにおいてご自分が私たちの父であることを示し、ご自分の形に私たちが一致するようにさせ、私たちに対するご自分の御心が何であるかを明らかにされました（ヨハネ 1:12；第二コリント 5:18；ヘブライ 1:3；ヨハネ 17:8）。

ですから私たちがキリスト者としての生活を送るということは他でもなく神がご自分と私たちの間に立てられた仲保者キリストを私たちの生活の模範とし、そのみ形を私たちの生活で表わしていくことにあるのです。神が私たちをキリストにおいてご自分の養子としてくださった条件はそこにあります。神と私たちを和解させてくださったキリストを私たちの生活で日毎に、豊かに表わしていくということです。もし、そのことをしないならば私たちは神に対して背信行為を犯すことになり、救い主を却ける罪を犯していることになります。

また神が私たちの父となってくくださったのですから、私たちが心から神の子として生活を送ることでその恵みに答える必要があります（マラキ 1:6；エフェソ 5:1；第一ヨハネ 3:1）。また、キリストがその血で私たちを洗い清めてくださり、洗礼を通してその清めを与えてくださったのですから、再び墮落して私たち自身の身を汚すことはふさわしくないことです（エフェソ 5:26；ヘブライ 10:10；第一コリント 6:11；第一ペトロ 1:15、19）。そしてキリストが私たちをご自身の身体に結びつけてくださったのですから、肢体である私たちは自分が汚れに染まらないように注意すべきなのです。（エフェソ 5:23-33；第一コリント 6:15；ヨハネ 15:3-6）。

また、私たちの頭であられるキリストが天に昇られたのですから私たちも地上への愛着を捨てて、心から天をあこがれることがふさわしいことです（コロサイ 3:1 以下）。また聖霊が私たちを神がお住まいになる宮としてくださったのですから、最善を尽くして私たちの生活で神の栄光を照り輝かせ、醜悪な罪で自分を汚すことがないようにすべきなのです（第一コリント 3:16、6:19；第二コリント 6:16）。また私たちの魂も身体も天上の不滅と朽ちぬ冠を定められているのですから（第一ペトロ 5:4）私たちが自分の魂と身体を主の日まで清く、腐敗しないように保つべきであると聖書は教えているのです（第一テサロニケ 5:23；フィリピ 1:10）。

これはどんなに祝福にみちた素晴らしい動機でしょうか。この世の哲学者たちが私たちに道徳を教えるときはどんなに努力しても高尚な生活を送ることが人間の本来の尊厳性であると語る以上のことはできません。しかし聖書が私たちに提供する動機は全く違っています。これと同じく私たちが自分の人生を通して真実で聖潔なる設計図通りのキリスト者の生活を建設しなければな



らない理由はキリストにおいて私たちが贖ってくださった神の恵みと愛に答えるためなのです。

第4節 キリスト者の生活は口先ではなく心が問題とされる。

福音は口先だけの教えではなく命の教えです。福音の力は口先や知識だけを満足させるものではなく心の最も深い部分まで浸透しその魂の内にある感情の座を支配して、その人格全体に影響を与えるものなのです。ですから福音は私たちに哲学者たちの忠告よりも何百倍も増した強力な影響を与えるのです。哲学や科学やその他のすべての言葉は人間の悟性の記憶力だけで理解することができますが、福音はそうではありません。福音は心で受け取って、靈魂の内にとどまるものなのです。ですから流暢な言葉だけを語っても、キリストに似る感情も性質も生活もないキリスト者はいまだ誤った欲望の内に朽ち果てている「古き人」を脱ぎ捨ててはいないことになるのです（エフェソ 4:22、24）。

もちろん私たちがキリストの性質と生活を完全に再現することはできません。だれもみないつも不足を覚え、たびたび失敗を犯すからです。しかし、そうだとしても私たちはその完全さを求め続けなければなりませんし、それを目標にして毎日を努力する必要があるのです。私たち自らが自分の弱さを口実にして、聖書のあるみ言葉には従うが、あるみ言葉は無視するということがあってはならないのです。神のすべてのみ言葉は私たちの正しき、良き生活のための設計に必ず必要なのです。ですから私たちは誠実でなければなりません。

神が私たちに要求される礼拝の最も重要な要素はその誠実さです（創世記 17:1；詩 41:12）。誠実という言葉は心が真実で単純であるということで、何事にも感謝し、偽りがなく、ふたごころを抱かないという意味です。正しい生活はこの誠実さから出発する霊的な生活だと言えるでしょう。

もちろん私たちが肉体の牢獄にある間は完全になることはできません。信者たちの大部分は弱さのためにその生涯でわずかに前進できるにすぎません。ですから自分の小さな力に応じて道を進み、歩み始めた道を引き返さないようにしなければなりません。私たちは成功のわずかさに失望したり、進むべき方向を変更してはいけません。どんなにその目標が遙かに遠おくても毎日少しずつ近づき努力をすべきです。今日が昨日より勝っているなら私たちのわざは決して失われることがないからです。

努力を中断することなく、また成功に酔いしれたり、落胆することがないようにしなければなりません。順調なときは自己満足に陥り、失敗をすると自己弁解だけに心を尽くすようなことがあってはならないのです。むしろ目標に向かって常に歩み続けるようにすべきなのです。そうすればいつかは私たちにも肉の弱さを脱ぎ捨ててキリストとの完全な交わりに入れられる日が来るでしょう。その日こそ私たちが生涯を通して追い求めてきたその目標に完全に到達するときなのです。

むすびのことば

良き建物を建てようとするならば、まずよい設計図が必要です。そしてその設計図通りに建物を建てる必要があります。一端、工事が着工されたならば完成までその工事を続けなければなりません。失敗を犯したり、大きな進展がなかったとしても昨日よりすこしだけ進むことができたことに喜び、神様に感謝を献げましょう。一日一日を最善を尽くして生きましょう。そして偉大な設計図通りに完成したあなたの人生を想像してみましょう。すべての苦難を忘れるほどに十分な喜びが起こるのではないのでしょうか。